

一般質問通告書(平成 24 年 3 月定例会)

氏 名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p>1 3番 村上 和子 1 平成 24 年度の予算編成における重点施策の取り組みについて (町 長)</p>	<p>今年度の重点実施施策の取り組みについて、厳しさを増す地方財政の中で、地方交付税が前年対比 1 億 6,700 万円減少、一般財源は総額 1% 増の 61 億 1,000 万円の予算規模であるが、地域経済雇用の活性化・福祉施設の充実など、重点的に応えていくとしているが、必要性・効率性・施策全般にわたる的確な効果性事業など考え、予算編成されたのか伺いたい。</p> <p>地域経済雇用の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの事業の検証から始めてはどうか。商工会の空き店舗調査後、活性化を見据えての新たな取り組みと、プレミアム商品券等の今年の実施施策は。 ・国の緊急雇用対策創出事業終了に伴って、町独自の雇用創出の取り組みは。 <p>観光の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日の出公園再生プロジェクトからの日の出公園の今年度の実施施策を。 ・見晴台公園のワークショップ後の、町としての実施取り組みは。 ・ラベンダーオーナー園の町としての関わりは。 <p>行政力として、組織機構の見直しが必要では。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務課車両班廃止の人員増により、各重要課に政策企画職員を配置してはどうか。 <p>福祉施設の実施について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設の充実を重点的な予算編成としているが、障がい者施設なのか、高齢者施設であるのか、小規模多機能型居宅など平成 26 年までに整備するということであるが、障がい者施設については、今年度どのような方法で整備されるのか伺いたい。
<p>2 東中中学校の今後について (教育長)</p>	<p>2 年前にも質問したが、「通学区域を撤廃し、保護者の希望により学校を選択できないか。10 年前と比べて、東中中学校の生徒は 40% 減少しているが、小規模校のメリットもあり、部活については限定されるが、上中との交流で補うことはできないか。地域の人との懇談会や通学区域外のチラシなど、もっと PR すべきではないか」と質問したが、それに対し教育長の答弁では、「子どもの数で学校の通学区を動かすのは難しい。東中中学校については地域の方々と今後十分協議し対応したい」ということであったが、24 年度は中学 1 年生の入学生がいないと聞いているが、東中中学校の今後についてどのように考えているのか、教育長に伺いたい。</p>

<p>2 10番 一色 美秀</p> <p>1 自衛隊退官者の雇用対策について</p> <p>(町長)</p>	<p>平成24年度退職者は40名でかつてないほど多くの方が退官される。そのうち、居住地域では上富良野24名、中富良野4名、富良野4名、計32名である。</p> <p>この32名が富良野管内の就職を希望している。</p> <p>現在採用内定者は何名いるか。</p> <p>上富良野町としてどのような雇用対策をとっているか。</p> <p>上記2点について伺いたい。</p>
<p>3 11番 今村 辰義</p> <p>1 過疎化と高齢化による「限界集落」などの現状と対策について</p> <p>(町長)</p>	<p>報道によると、道は、市街地以外でおおむね300人以下の住民がまとまって暮らす場を「集落」と、初めて定義。「限界集落」については65歳以上の高齢者が50%以上 共同体機能が「低下」か「維持が困難」と自治体が判断したところ・・・と定めている。</p> <p>今回、道は、この定義に従って昨年11月に全市町村に対して文書で調査を実施し、その結果高齢化で共同体機能が低下し消滅の恐れがある限界集落について、12月15日、道内に167カ所存在するとの調査結果を明らかにした。このうち65歳以上が集落住民の7割を超えるのは37カ所に上がるなど、過疎地域で進む深刻な高齢化が浮き彫りになった。そこで質問だが、</p> <p>1点目、わが町の「限界集落」の有無などに関して調査を受け、道に文章で報告した内容について。</p> <p>2点目、「限界集落」あるいは「限界集落」の定義に入らなくてもそれに近い集落など、深刻な過疎化・高齢化が進行している現実がある。今後、町はそれらの現状をどのようにとらえ対策を講じようとしているのか。</p> <p>など「限界集落」関連について、町長の考えを伺いたい。</p>
<p>2 中学校における平成24年度からの新学習指導要領完全実施に向けた準備状況について</p> <p>(教育長)</p>	<p>報道によると、来年度から中学校で完全実施される新学習指導要領に対し、全国の主幹教諭、教務主任の87%が「教員の多忙化の加速が不安」と答えたことが、昨年6～7月のベネッセ教育研究開発センターの調査で分かった。不安な点を尋ねると「とても」と「やや」をあわせて「人員の不足」79%、「授業時間の確保」68%と続き、「生徒間の学力格差の拡大」63%、「生徒の疲れの増加」60%と生徒への心配も大きかったとある。新学習指導要領では各学年の年間標準時間も以前の980時間から1,015時間に増える。理数教育や、説明や討論など言語活動の充実への期待は大きいですが、教員不足や授業時間の確保を不安視する調査結果となった。そこで質問だが、</p> <p>1点目、中学校の新学習指導要領は2008年3月に告示されているが、わが町の教員の多忙化、教員不足、授業時間の確保などへの不安の現状は、そして、それらへの4年間で講じた対策について。</p>

	<p>2点目、中学新学習指導要領にある武道について。</p> <p>ア 狙い(技能、態度、知識理解)や、内容の取り扱いは1・2年生と3年生とでは違いがあるが、学年ごとの教授内容について。また、教える武道種目は。</p> <p>イ 4年間の移行期間における、武道教諭の養成・確保や、その他の準備の取り組みについて。</p> <p>ウ 部外から講師を招くと聞いているが、その地位や役割について。</p> <p>など新学習指導要領について、教育長に伺いたい。</p>
<p>4 1番 佐川 典子 1 議場ライブ中継について (町 長)</p>	<p>議会改革など議会の事は議会運営委員会が主動になって行っているが、町長の姿勢による影響があるのであえて伺いたいと思う。</p> <p>町の憲法である「上富良野町自治基本条例」の第4章、議会の役割と責務(議会の運営)第11条、議会は町民に開かれた議会運営を行うため、保有する情報を積極的に公開し、町民との情報共有に努めます。とあり、これに順次で、平成23年11月29日には2回目の議会報告会を開催し、町民に対し開かれた身近な議会を目指してきている。また文章化による議会だよりや、ホームページでの公開により閲覧もできるようになっている。</p> <p>しかし、最近ではインターネット等により、動画やライブ中継が可能になり、他市町村でも取り入れている所が増えてきている。わざわざ傍聴に行けない。仕事が忙しい。また、ひざが痛く、3階まで行くのはつらい。などの理由が主で、議会を見に行けない人のための権利として今後考えるべき点だと思っている所である。</p> <p>またこのライブ中継には、おのずと予算が不可欠で費用対効果の面もあり、執行権のある町長の姿勢と議会の考え方による動向に左右されるが、今後議会から予算要求があった場合の対応と、オンデマンドではない安価なユーストリームなどによるライブ中継など、検討する考えについて伺いたい。</p>
<p>2 葬儀時に弔旗を使う事について (町 長)</p>	<p>突然の悲しい知らせや天寿を全うされた時など、人の命は儚く、いずれは必ず誰にでも最後は訪れる。そこで現在、上富良野町に住まわれた方が不幸にもお亡くなりになった時、町長の交際費より支出基準が決められ、弔電・香典・生花などの対応をしている現状がある。</p> <p>しかし町長は公務等も忙しく、全部の葬儀(1月から12月までを一年とした数値において、平成20年111名、平成21年122名、平成22年127名、平成23年100名)に出られるわけもなく、また代理としての副町長においても同じ事が言える。町民一人一人に対し、上富良野町として弔意を表す事が、公平な町政には大切な事であると考えているところである。</p>

	<p>S市、T市など町名を織り込んだ弔旗を祭壇の左に置き、町としての弔意を表し、趣を添えていたが、これから将来において続く深い悲しみの葬儀時に本町において町民に見える形での弔いの弔旗使用について町長に伺いたい。</p>
<p>3 ふるさと納税について (町長)</p>	<p>平成20年4月の地方税法の改正により始まった「ふるさと納税」は、「自分の育った地域」「自分に大きな影響を与えた人や自然などの所在する地域」また「将来的に住みたい地域」など、地域を応援したいという熱い気持ちを納税という形で地域の活性化に思いを繋ぐもので、2,000円以上の寄付金額にに応じて、翌年に一定額を個人住民税や所得税において軽減する制度であり、他市町村では、この寄付者に対し一定の基準において心からのお礼とふるさとを身近に感じて下さる様にと様々な記念品等をお贈りしている。上富良野町の対応と今後この納税者への記念品も含め、継続して寄付をお願いする事への町長の考えと寄付者を増やすための施策、今後将来への見込み、どのように使われ、納税者に報告しているのかなど伺いたい。</p>
<p>5 7番 中村 有秀 1 住民活動の拠点となる住民会館のない地区の計画的建設促進と旭住民会館の早期建設を (町長)</p>	<p>上富良野町には25住民会と124町内会があり、各々の地域によって相違があるが、「協働のまちづくり」として住民会・町内会が中心になって、住民自治活動が活発に進められている。</p> <p>自主防災組織の強化と災害時要援護者対策、公園緑地等の維持管理、老人クラブ活動の活発化とふれあいサロン、地域見守りパトロール等々の「町民主体で成り立つコミュニティづくり」は「協働のまちづくりの基本指針」に基づき、積極的に取り組みが行われている。</p> <p>住民活動の拠点となるべき「住民会館・公民館分館」等がない住民会がある。住民会館のない住民会・町内会は近隣の公的施設や役員宅等を利用し、不便を耐えながら住民活動をしている。</p> <p>郡部12住民会は公民館分館等が全部設置されており、また年々施設の改善整備が行われている。</p> <p>市街地13住民会は会館のない住民会と、あっても老朽化と狭隘の会館もある。</p> <p>以上の状況から町長の見解について伺う。</p> <p>(1) 市街地の住民活動の拠点としての住民会館の存在意義について</p> <p>(2) 旭住民会は平成23年9月30日現在の住民基本台帳によると、世帯数542世帯、人口1,293人で、上富良野町の最大の住民会組織であり、町内会数は9町内会で、特に旭町自衛隊官舎のある「旭町2丁目町内会」は137世帯で構成されている。</p> <p>旭住民会の諸活動は、東明住民会と共に本町の住民会活動の推進役となっていることは承知のことと思う。</p>

	<p>旭住民会及び町内会の会議・活動の拠点は東児童館だが、利用は平常日は夜間のみ、日曜日は昼夜間と制限されており、いつでも利用できる会館のある住民会とは大きくかけ離れている。</p> <p>また、老人クラブ活動は社教センターを利用せざるを得ない。住民会の地域内であれば参加者も増えるのにとの声も聞かれた。</p> <p>住民会関係の書類・記録等も保管する場所がなく、その都度に持ち運びをしている。</p> <p>ただいま申し上げた状況から、旭住民会館の早期建設について、町長の決断を求める。</p> <p>(3)市街地のその他の住民会館の建設・改築等は計画的に進めて行くと考えが、その具体的な方針を持ち合わせているか伺う。</p>
<p>2 協働のまちづくりに町民と職員が一体となって推進する「地域担当職員制度」を導入すべきである (町長)</p>	<p>「自治基本条例の制度」「協働のまちづくり基本方針」等を含め、協働のまちづくりが住民会・町内会や商業・農業観光・自衛隊等と町内の各分野で少しずつ「うねり」となっている。</p> <p>地域住民の課題を地域住民が話し合い協力し合い、身近な問題の解決、地域の活性化を図るため、町民と町との「協働のまちづくり」の一つの方法として職員が地域担当職員制度の導入を図るべきと考える。</p> <p>一般町民は自己の職業を持ちながら、高齢者は自分の余暇に生き甲斐を求めて協働のまちづくりに各分野で活動されている。</p> <p>協働のまちづくりを進めるうえで、広く町民や地域の意見を聞き、地域と行政が密接な関係を作るためのパイプ役となり、また、地域活動や各種行事への参加が必要と考えられる。</p> <p>町政運営改善プラン24での「町民参画の推進」「組織機構の見直し」等を含めて地域担当職員制度の導入を強く求める。</p>
<p>6 4番 米沢 義英 1 演習場の騒音対策について (町長)</p>	<p>自衛隊演習場の騒音対策を要求してきたが、関係機関にどの様に働きかけ改善されようとしているのか伺いたい。</p>
<p>2 子育て応援特別手当交付金について (町長)</p>	<p>子育て応援特別手当交付金が、一部手続き上及び解釈の違いで交付されず、不納欠損として処理されようとしているが、その理由について伺いたい。</p> <p>また、子育て手当の交付を引き続き要請すべきでは。</p>

3 介護保険制度について (町長)	税と社会保障の改革で高齢者に新たな負担が求められているが、上富良野町の第5期介護保険料の改定率は標準で約10%アップとなっているが、一般会計や基金の取り崩しなどの増額を行い、介護保険料の据え置き、または、引き下げを考えるべきでは。
4 予防接種について (町長)	ロタウィルスに感染した幼児が胃腸炎になり重症化することもある。町としてロタウィルスの予防接種に対して補助制度を設けては。
5 紙おむつ用ごみ袋の支給について (町長)	新年度から、子育て支援の一環として、紙おむつ用ごみ袋の支給が計画されているが、対象年齢を2歳児までに引き上げては。
6 商業振興について (町長)	町において、この間、空き店舗の実態調査もしているが、今後の商業振興策をどのようにされるのか伺いたい。
7 リフォーム制度について (町長)	住宅の改築などに対する助成制度を設けたが、活用しづらいとの声があり、外壁や内装などの簡易な修繕などにも対象を拡げるべきでは。
8 新規就農対策について (町長)	国は、新規就農を目指す青年に対して、一定の要件を満たせば助成金を交付する制度を創設したが、町として、この制度をどの様に活用されるのか伺いたい。
9 予算編成について (町長)	地方財政計画では、地域経済活性化、雇用対策、防災対策、光をそそぐ交付金、子ども基金など、地域の雇用や防災対策、施設整備など地域づくりに活かせる交付金が盛り込まれているが、町として、どの様に活用されようとしているのか伺いたい。
7 8番 谷 忠 1 鹿柵設置と捕獲対策について (町長)	<p>有害鳥獣による農作物被害は全道的に広がり、特にエゾシカによる食害は我が町も例外ではない。繁殖力が強く、年々頭数も増加状況にある。</p> <p>農業者から設置に向けた要望が多くなり、設置に向け取組むべきと思われる。行政が主体となつての取り組みには課題も多いと思うが、行政としての関わりをどうお考えか伺いたい。</p> <p>大規模な捕獲事業が白糠町で自衛隊の協力を受け、2月11日～2月13日まで実施。3日間で92頭と昨年(28頭)の3倍以上もの実績が報告されている。道は記者会見で新年度、各市町村から希望を募ることを表明、希望を聞きたいと述べている。</p> <p>抜本的な駆除対策として希望を提出すべきと思うが、見解を伺いたい。併せて食としての見解についても伺いたい。</p>
2 小売店街のなすべき事と購買力の食い止め対策について (町長)	<p>昨年、品物が売れないと町内小売業者のぼやく声を耳にすることが多い。</p> <p>品物もあり、多くの店にもある反面、国民可処分所得が伸びずにいる。</p> <p>単純に計算しても1商店の売上が停滞していることになる。順調に伸びてきた業種も業績格差が二極</p>

	<p>化し、売れる店とそうでない店の差が著しく表れている。本町小売店が生き抜くには何をなすべきか、地域活性化とよく言われるが、購買が都市部に流れている。</p> <p>本町の顔である中心街が衰退し、町全体の活力が失うことは明らか。</p> <p>品物が売れないのではなく、今までと同じ売り方では売れないということではないのか。町は商工団体等と連携を密にし、基礎調査、意識調査を行い、総合診断を実施し、問題は何か、これを解決する長期計画を樹立し、将来ビジョンを示し指導すべきと思うが、見解を伺いたい。併せて購買の町外流出の具体的な食い止め策があれば町長の所見を伺う。</p>
<p>8 12番 岡本 康裕 1 まちづくりについて (町長)</p>	<p>平成21年4月に町の最高規範である自治基本条例が施行され、情報の共有・協働と参画・自助共助公助のもと、まちづくりが行われ、次第に町民の中に根付いてきている。</p> <p>特に、住民会活動や自主防災組織、協働のまちづくり活動等、「地縁型」のまちづくりには目を見張るものがある。</p> <p>一方、長引く経済的不況や、先行きの見えない閉塞感から町に活気がないように感じられる。先に挙げた地縁型も大切だが、町に住まう多くの町民、特に若い世代やこの町の、これからの時代を担う人々や、また、趣味などを通じての交流からまちづくりができないかと考えるが、そこで町長に次の点について伺う。</p> <p>第5次総合計画でうたわれている、「楽しく便利な地域生活の実現」の中にある気心の知れた人間関係のある地域づくりの施策の方向性の中の、身近で誰でも気軽に集い、交流できる場を拡充するとあるが、施策として何か具体策は考えているか。</p> <p>趣味などを通じた活発なコミュニケーションづくりに対する側面支援の充実に対して何か具体策はあるか。</p>
<p>2 防災について (町長)</p>	<p>わが町上富良野町は、過去に幾度となく噴火を繰り返している活火山十勝岳を有している。また、近年わが町上富良野町において、豪雨災害が続いて起こっている。</p> <p>執行方針において平成24年度に地域防災計画の見直しをしようとしているが、防災に対して次の点について町長の考えを伺う。</p> <p>消防の広域化により上富良野の防災力が高まったと考えられる点はどこか。</p> <p>また、今後期待される防災・減災に対してのメリットは何か。</p> <p>先の第4回定例会時に、同僚議員の災害の質問に対する町長の答弁の中で、避難所に関して、実</p>

	<p>際を想定したあり方を考慮すると答弁があったが、避難所になっている31か所において、厳冬の噴火に対して、防寒・暖房・毛布・マット等の備蓄に対して、見直し作業ではどのような考えをもって臨むのか。</p> <p>3.11以降の総合防災訓練が平成24年2月23・24日に行われたが、22年度の訓練と比較して工夫された点、また新しく取り入れた訓練はあったか。</p>
<p>3 観光について (町長)</p>	<p>秀峰十勝岳の峰々を空に見上げながら、ラベンダーをはじめ火山の恵みである温泉と素晴らしい景観に彩られているわが町の観光であるが、近年の情報通信の技術進歩により、パソコンをはじめ、携帯電話、タブレット等により、どこからでも個人が情報発信ができる時代になった。観光に訪れた方々がリアルタイムにその情報をフェイスブックやツイッター、ブログ等により発信することで、それがPRにつながることになる。そこで観光地及び公的観光施設からも情報発信ができるようなWi-Fiのフリースポットを設けるなどのインフラ整備が必要だと考えるが、町長の考えを伺う。</p>